

令和 6 年度 of 取組結果について

【長寿社会課】

1 現状分析・課題抽出・施策立案

(1) 地域の医療・介護の資源の把握 (旧ア)

地域の医療機関及び居宅介護支援事業所情報を更新し、本市のホームページに、市内医療介護機関等の情報に関するリンク先を掲載。

(2) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討 (旧イ)

- 旭川市在宅医療及び介護連携推進検討会の開催 (当会議)
(前回開催) 令和 6 年 4 月 2 5 日
- 旭川市在宅医療及び介護連携推進検討会内にワーキンググループ設置
令和 6 年 4 月 1 1 日～令和 7 年 3 月の間 計 4 回開催 (第 1 回目は令和 6 年 2 月 1 1 日に開催)

(3) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進 (旧ウ)

- (前年度から継続) 医療と介護の連携推進に関するチラシを配付し、普及啓発を行っている。
- 令和 7 年 1 月、旭川市入退院時の医療と介護の連携の手引き及び入院時情報提供書を改訂し、市内医療機関及び居宅介護支援事業所に配付。

2 対応策の実施

(1) 医療・介護関係者の情報共有の支援 (旧エ)

- (前年度から継続) 「あさひかわ安心つながり手帳」を作成し配付。
【令和 6 年度実績】 配付数 2、0 4 7 冊
- 「わたしのこれからシート」を作成し配付。

(2) 在宅医療・介護連携に関する相談支援 (旧オ)

(前年度から継続) 旭川市在宅医療・介護連携相談窓口の設置 (委託先: 市立旭川病院)

【令和 6 年度実績】

相談件数: 2 4 件 (電話: 2 1 件、来所: 3 件、その他: 0 件)

医療・介護関係者との連携: 5 3 回

地域住民への普及啓発: 8 回

（３）医療・介護関係者の研修（旧力）

| | |
|-------|---|
| 企画の要旨 | 地域住民が望む看取りに資するべく、支援者として必要な知識を習得する。 |
| 日時 | 令和 6 年 1 1 月 2 2 日（金） 午後 6 時 3 0 分～午後 8 時 3 0 分 |
| 会場 | 旭川市民文化会館 小ホール |
| 対象者 | ・医療機関職員 ・地域包括支援センター職員 ・介護サービス事業所等職員（居宅介護支援事業所、小規模多機能型事業所、訪問看護事業所等） |
| 参加者数 | 約 1 0 0 名強 |
| 内容 | (1) 講演：「高齢者の権利について」 講師：富田 佳佑氏（りんどう法律事務所） (2) シンポジウム：「その質問弁護士の先生に聞いてみよう」 パネリスト：富田佳佑氏、今本千衣子氏、青木優明氏、植木小百合氏、酒元啓太氏、 下間はるみ氏 |

（４）地域住民への普及啓発（旧キ）

ア 在宅医療・介護ガイドブックの改訂・配付（昨年度から継続）

A C P に関するページを作成し、関係者向け研修会や市民講演会等での配付。他にも市有施設や医療機関等への配付。

☆令和6年度中の在宅医療・介護ガイドブック配布数 1、272冊

イ 地域住民向けの講座等の開催

（ア）令和 6 年 1 0 月 2 0 日実施分（保健所と共催）

| | |
|------------|--|
| 目的・ テーマ | 人生の最期を住み慣れた地域や自宅で迎えたいとするニーズが高まっていると言われており、本市においても在宅で最期を迎える方が年々増えており、今後も更に在宅医療を望む市民が多くなる ことが想定される。 市民が将来にわたって安心して暮らし続けていくことができるよう、地域住民に対し在宅医療に関する理解を促進することを目的に、旭川市内で在宅医療に尽力する医師及び薬剤師を講師とする市民講演会を開催する。 |
| 日時 | 令和 6 年 1 0 月 2 0 日（日）午前 1 0 時～午前 1 1 時 4 0 分 |
| 会場 | 旭川市大雪クリスタルホール国際会議場（大会議室）（旭川市神楽 3 条 7 丁目） |
| 講師 | まるまめ在宅診療所 所長 松本 学也 氏 末広みくに調剤薬局 管理薬剤師 青木 優明 氏 |
| 対象者 | 一般市民 |
| 参加者 | 1 4 6 名 |
| 開催方法 | 集合形式 |
| 内容 | 講話 演題 「人生の締めくくりは家でもできます～あなたはだれと一緒に考えますか？～」 |

(イ) 令和 7 年 1 月 1 9 日実施分（市立旭川病院地域医療連携課 在宅医療市民講演会としても実施）

目的・ 高齢化の進展で多死社会を迎えると言われており、ACP(Advance Care Planning)の普及啓発が推
テーマ 進されている。日本人は『死』に関する話題を避けがちであり、日頃より身近な人と『死』に関す
 る話を行う機会があまり持てていないよう感じる。市民が『死』に対しての意識をもち、人生の最
 期をどのように迎えたいか考えるきっかけとなり、ACPの必要性を理解してもらうことを目的とす
 る。

日時 令和 7 年 1 月 1 9 日（日）午後 1 3 時～午後 1 4 時 4 5 分

会場 イオンモール旭川駅前4階 イオンホール

講師 (1) 市立旭川病院副院長 垂石 正樹 氏
 (2) 曹洞宗 玉運寺 住職 坂野 亮宗 氏

対象者 一般市民

参加者 1 0 7 名

開催方法 集合形式

内容 講話

演題 1 「人生の最終段階を幸せに生きるためのACP」

演題 2 「老いと病と死を生きるとは～自己から他己への変換～」

3 対応策の評価、改善

在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携（旧ク）

・ 「令和 6 年度 上川中部保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会」に参加
（令和 6 年 7 月 2 2 日及び令和 7 年 2 月 2 7 日 いずれも Z O O M開催）

・ 「令和 6 年度 上川中部保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療・医療連携推進情報交換会」に参加
（令和 6 年 6 月 2 5 日開催）

事業評価指標項目

別紙 報告事項資料④のとおり

○在宅医療推進検討会の開催

取組項目（旧イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出

| | |
|------|---|
| 目的 | 市民が将来にわたって住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、在宅医療の推進について検討を行うため。 |
| 会議名 | 第13回旭川市在宅医療推進検討会議 |
| 日時 | 令和7年2月7日（金） 午後6時30分から午後8時00分 |
| 会場 | 旭川市総合庁舎7階 会議室7E（旭川市7条通9丁目） |
| 参加者 | 11名 (1) 所属：一般社団法人旭川市医師会 中條 拓（医療法人社団志恩会相川記念病院 院長） 今本 千衣子（医療法人社団今本内科医院 院長） 長峯 美穂（東光クリニック 院長） 村井 紀太郎（医療法人恵心会北星ファミリークリニック 院長） 及川 太（医療法人社団及川医院 院長） (2) 所属：市立旭川病院 垂石 正樹（市立旭川病院 副院長） (3) 所属：保健所 中屋 恵（保健総務課 課長） 村岡 弘江（保健総務課 課長補佐） 伊藤 達也（保健総務課） (4) 所属：福祉保険部 宮川 浩一（長寿社会課 課長） 星 るい（長寿社会課 地域支援係 係長） |
| 開催方法 | 集合形式 |
| 内容 | (1) 現状説明 ア 旭川市の在宅医療の現状（各種統計）について イ 令和6年度までの在宅医療推進事業実績概要について (2) 検討事項 ア 次年度以降の在宅医療推進事業について イ 訪問診療の課題（大雪時の訪問車両駐車など）について |

※第14回の開催については、現在検討中。

○「在宅医療・介護に係る分析支援データ」の把握

取組項目（旧イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出

国保データベース（KDB）システム、JMAP、AJAPAを活用した集計データのうち、旭川市分を抜粋。在宅医療推進検討会議及び関係部局等と共有し現状について理解を深めるとともに地域の課題について検討する資料とする。

○「在宅医療・介護ガイドブック」の配付

取組項目（旧キ）地域住民への普及啓発

関係者向け研修会や市民講演会等での配付

市有施設や医療機関等への配付

○市民講演会の開催

取組項目（旧キ）地域住民への普及啓発

長寿社会課と共同して開催。詳細は長寿社会課分に記載。

○関係者向け研修会の開催

取組項目（旧カ）医療・介護関係者の研修

| | |
|------|--|
| 目的 | 人生の最期を住み慣れた地域や自宅で迎えたいとするニーズが全国的に高まっていると言われており、本市においても市民の約４０％が自宅で最期を迎えたいとするニーズ調査結果がある一方、現実のその割合は約１３％に止まっている。 在宅療養を望む本人及び家族が安心してその選択をし実現できるよう、在宅医療に従事する医療専門職の確保及び質の向上を図り、基盤の整備を図るため本研修会を開催する。 |
| 日時 | 令和６年９月２８日（土）午後３時～午後４時３０分 |
| 会場 | 旭川市総合庁舎７階 大会議室Ｂ（旭川市７条通９丁目） |
| 講師 | 医療法人社団プラタナス桜新町アーバンクリニック 院長 遠矢 純一郎 氏 |
| 対象者 | 在宅医療に携わる、あるいは関心のある医師、薬剤師、訪問看護師 |
| 参加者 | ３７名 |
| 開催方法 | 集合形式 |
| 内容 | 講話 演題 「在宅医療の現場から学ぶ－患者と家族を支える実践事例－」 |